

第5回 作業療法ジャーナル研究助成・研究結果報告

「筋萎縮性側索硬化症患者における 福祉用具導入の実態調査および介入効果の検討」 研究結果報告



大寺亜由美氏

大 寺 亜由美

(神奈川県立さがみ緑風園診療所、作業療法士)

第5回作業療法ジャーナル研究助成の研究「筋萎縮性側索硬化症患者における福祉用具導入の実態調査および介入効果の検討」の最終結果を報告します。

第1研究では、過去6年間における福祉用具導入事例の診療録情報より、導入指標の作成を試みました。結果、上肢装具、対話用装置、摂食用具、非装着式上肢装具、頸椎装具を導入した症例は多数例認められ、これらの福祉用具に対して、導入時期の特性を疾患特異的機能障害分類 ALSFRS-R (ALS Functional Rating Scale-Revised) を用いて表すことができました。加えて、ALSの福祉用具の使用期間に影響を及ぼす因子は、対話用装置では導入時の人工呼吸器装着の有無、摂食用具では認知症の有無という結果が得られ、身体機能以外にも導入時に特に配慮すべき点が明らかになりました。

第2研究では、福祉用具の介入効果を検討しました。対象4例中1例が追跡可能でした。追跡可能であった1例に対しては意思伝達装置を導入し、介入効果は、QOL評価の指標である SEIQoL-DW (Schedule for the Evaluate Individual QOL Direct Weight) を用いて検討しました。結果、意思伝達装置の導入1カ月後に52点、4カ月後に78点と向上が認められ、その有用性が示されました。

本研究では当院の現状把握にとどまりましたが、現在、専門的にALSのリハを行っている病院の情報を集積しております。ALSがまれな疾患であるがゆえに滅多にALSを担当することのないOTでも、本人が希望する作業活動を維持させる手段として、適切な時期に適切な福祉用具を導入できるような導入指標の作成を試みていきたいと考えています。